

ジュニアの中では圧倒的強さ。もはや競う相手はナショナルチームだ。

2006年1月22日 東京都八王子市
第23回ジュニアチャンピオン大会

宇野兄弟 他を圧倒

男子ジュニアクラスでは宇野兄弟が1位、2位を占めた。優勝した宇野夏樹は2連覇。来年はいよいよ3連覇がかかる。過去この大会 JME クラスの3連覇は2000年から2002年の間に山田高志が記録しているのみ。

高校生ながらジュニア世界選手権に参加した経験を持つ宇野夏樹は、このクラス日本ではもはや敵無しの状態。比べる対象はもはやナショナルチームのメンバーが叩き出した参考試走タイムなのだ。

オリエンテーリング家の宇野家に育った兄弟の快進撃がどこまでゆくのか楽しみだ。

JME クラス

1	宇野夏樹	武相 OLK	0:38:13
2	宇野駿介	町田市堺中	0:51:40
3	岡本将志	OLC 東海	0:56:43
4	光山拓実	桐朋 IK	1:09:31
5	林田成徳	武相 OLK	1:09:35
6	梅脇剛	桐朋 IK	1:09:37
7	木下新一	麻布学園 OLK	1:11:47
8	佐藤史弥	麻布学園 OLK	1:12:34
9	引地穰	麻布学園 OLK	1:12:53
10	白松幸起	麻布学園 OLK	1:15:04
参	鹿島田浩二	渋谷で走る会	0:31:19
参	高橋善徳	ときわ走林会	0:31:39
参	山口大助	ES 関東 C	0:34:16



女子ジュニア優勝 高野美春



宇野俊介 / 宇野夏樹 / 岡本将志 男子ジュニアチャンピオンの表彰

高野美春 2連覇

高野美春。元日本チャンピオン・高野由紀を母親に持ち、その祖父もオリエンティアという DNA を受け継ぐ。2位に入った宮川早穂とともに2世、3世オリエンティアが女子ジュニアを支える。

というのも女子のジュニアクラスへの参加はこの2名だけという寂しい状況だ。森の中を一人でバリバリ走ろうという女子高生、女子中学生は殆どいない。もっと多くの参加者が望まれる。

JME クラス

1	高野美春	入間市 OLC	1:03:18
2	宮川早穂	ES 関東 C	1:16:23

多摩 OL の総力を挙げて

「また参加したい」と思える満足度の高い大会だった。毎年恒例になっている多摩 OL 主催のジュニアチャンピオン大会の人気を示しているのが大会参加者数だ。ここ2年は天候に恵まれていないが、参加者数はここ数年400名から500名程度を集めている。

この大会のどこが良かったと感じたのか数えてゆくととキリがない。その心地よさの根本を辿ってゆくと、多摩 OL メンバーが参加者のことを第一に考え、楽しんでくれることに労を惜しまない心遣いだと気付く。

企業では一般的となった CS (顧客満

足度) という観点が、この多摩 OL のジュニアチャンピオン大会運営のあらゆるところに取り入れられているようだ。

雪上オリエンテーリング

前回(昨年)のジュニアチャンピオン大会に続き、今年も前日に多摩地区で大雪が降った。大会当日は晴れたが、真っ白に雪化粧したトレインで大会は行われた。

森の中は足跡だらけとなり、不明瞭な小径なのか、タダの足跡なのか、よく判らない状態になっている。こんなときはしっかりと地形を読んで走るしかない。こういう時ほど基本的に忠実なオリエンテーリングが重要だ。

草の上に積もった雪がツルツル滑る。滑りにくい靴を選ぶことも重要だ。そして防寒と運動量のバランスを考えたウェアの選択。雪上のオリエンテーリングはあらゆる戦略バリエーションが可能となる。

この大会のシニアクラスではアドベンチャー系の参加者も多い。彼らとマテリアルで勝負するのもいいだろう。

0-map「滝山城址」は制約も多いトレインだけにプランナーの苦勞が偲ばれるが、城跡独特の複雑な地形もあり、通行可能度も良く楽しめるコースだった。

(木村佳司)